

## 新しい夏作水田牧草

## 「竜北グラス」について

全国農業協同組合連合会

黒川 計

## まえがき

稲作は古来日本農業の代表であり、常に米の増産が期待されてきた。米に代わり水田に他の作物を作るなど、特別の場合のほか考えられなかった。水田で飼料作物を作るということは、稲作の後の冬作として作ることであった。

ところが最近になり、米の生産量が増加する一方、消費が減り、生産を調整せざるをえないことになった。この結果50万hもの水田に他の作物を作らざるをえなくなった。転作作物としては野菜や飼料作物などであるが、作付されている面積は僅かで、大部分は作付が放棄されている。

作付放棄の大きな理由は、労力不足が最大の原因であるが、湛水状態でも作付できる有利な作物が極めて少ないことも、大きな理由である。また、あっても蓮や里芋など、需要の少ない作物ではどうにもならない。

飼料作物など大きな需要が期待されるものの中から、何とか新しい作物を開発しなければならない。稲やひえを、実をとらずに青刈にして飼料化することも一応は考えられるが、草の収量が低く、経済ベースに乗らない。何としても生草で10a当10t以上は欲しい。

私は稲作転換の話が出ると、何とかして、湛水



和鹿島農協酪農部長  
中根吉之さん

非常に感激をおぼえた。

できれば全国的に試作したいと思い、まず岩手県、栃木県の農業試験場および神奈川県平塚の全

にも強く、水田夏作で、収量の高い飼料作物はないものかと考えていた。たまたま昨年の夏、熊本県の阿蘇で開かれた全購連福岡支所主催の牧草研究会席上、このキシウスズメノヒエ（竜北グラス）の試作成績の発表が熊本県畜産試験場からあり、

購連農業技術センターで越冬試験を行った。

平塚では越冬したが、盛岡と宇都宮では枯れてしまった。

今回更に現地に出かけ、現に「竜北グラス」を作っている農家に会って、なまの話をきき現地を見せてもらった。

## 熊本県竜北村での「竜北グラス」

竜北村は八代市の北方約10kmのところにある。ここは平坦な水田地帯で、熊本県のイグサ栽培の中心地でもある。イグサは加工まですると10aで40万円もの粗収入があるという。

大きい農家はイグサを3hも作っているが、平均でも80aくらい作っているそうである。この村で酪農を営んでいる農家は48戸あり、この中には酪農を主としている農家もある。

私たちは、和鹿島農協の酪農部長であり竜北村の農業委員会々長をしている中根吉之氏宅を訪問した。ちょうど田植最中であつたが、強い雨の中をお訪ねしたためか、こころよく話をしてくれた。

ことの初めは、竜北村の地先海岸で不知火干拓地が造成中であつた昭和41年夏に、干拓地内の約40hに、この竜北グラスが密生していたが、牛がこれを好んでたべるので、村内の大部分の酪農家が、これを刈取り利用したということである。

干拓埋立地は地盤が軟弱であつたが、地下茎が密生しているためか耐地性が高く、機械刈取りができ、また運搬のため自動車の乗入れもできた。ただ、この干拓地に入植後水稻を付ける場合、この雑草をどう処理するか心配になったという。

聞くとところによると、昭和28年の九州大水害の時に、九州農業試験場では、雑草としてのキシウスズメノヒエをどう処理するか、1つの大きな課題であつたという。

昭和42年7月に中根氏は欧州視察旅行に参加した。その際欧州各国で、元来野草であつたイタリアンライグラスが立派に牧草として栽培されていることを視た。

特にオランダでは数千hの干拓地に、イタリアンライグラスが自然密生しており、その後において入植させることを見聞した。

41年の夏に自然密生していた竜北グラスを皆で利用したので、この点強い印象を受けたという。

その年に不知火干拓地に初めて入植され、水稻

が作付けられた。前年、あれほど竜北グラスが密生していた地域にも、何の支障もなく稲が生育しているのを見て安心したそうである。



竜北グラスとその現場

昭和43年に竜北グラスの牧草化を図るため、牛の繁殖、成長および乳牛の嗜好性などを細かに観察、調査したところ、極めて有望であることを認めた。

昭和44年に、熊本県庁畜産課に依類して、竜北グラスの現地

調査、学名の検討、成分の分析を行った。

学名はカリマタスズメノヒエ（またはキシウスズメノヒエ）、禾本科で暖地の海岸ぞいに群生し、極めて繁殖力の旺盛な多年性雑草であることが明らかになった。

熊本県畜産試験場が、同場内の畦畔の竜北グラスにつき分析した結果は次の通りであった。

竜北グラスの分析成績(%)

水分	粗蛋白	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗繊維	粗灰分
12.7	1.4	0.6	7.8	4.9	2.6

以上4年間の体験、観察、調査検討の結果、自信をもって水稲転換の夏型牧草として試作することに決定した。

#### 竜北グラスの作り方

本格的に栽培するに先だち、苗の植付法や施肥法などについて試験し、一応次のような方法で作っている。

整地＝はじめて竜北グラスを作る場合は、稲の作付けの場合同様に、まず荒起、細土、代掻を行う。

この場合、竜北グラスは多年性なので、数年分の堆肥を予め施しておき、地力の減耗を防ぐ。

苗まき＝このグラスは内地では採種困難のため、切断した苗を代かきした本田にまくだけで、立派に活着する。苗は茎の部分15～20cm(2節、

1節でもよい)に切り、10a当り150kg～200kgくらいまく。このように多量にまくのは、疎植では節から出た茎葉が直立しにくく、収穫に不便なためである。

施肥＝堆肥の他に速効肥料として元肥および刈取る度毎に、牛尿、化成肥料、尿素などを施肥する。施用量は窒素で元肥5～6kg、追肥は刈取る牧草の量に応じ、1回につき窒素5kg～10kgくらいを施す。燐酸、加里も窒素に応ずる量を施す。

なお燐酸については夏作でもあるので、元肥に一時に施してもよい。牛の飼料であるので、石灰や苦土の施用も考えるべきである。

灌水＝このグラスは水田に好んで生育するくらいなので、乾燥して畑状態になると生育が鈍る。乾燥しすぎる場合は灌水する。

刈取＝このグラスは高温多湿の時に生育が盛んである。最もよく生育する時期は7月、8月、9月である。早い時は半月で生草3トンを越える収量がある。

このときはまた良い天気がつまらぬ時期でもあり、刈って3日も良い天気がつまらぬ乾燥になる。

生草収量＝生育期間、施肥、刈取回数などで決定される。2年目からは、春早くから生育するから6～7回刈取れる。青草で15トンは容易であるといっている。

作業の機械化＝竜北グラスはランナーが縦横に張っている。したがって半湿田気味の水田であっても、大型トラクターが入っての刈取りもでき、また草の運び出しのためのトラックも入れる。

#### イタリアンライグラスとの輪作栽培

竜北グラスは暑い時に生育が盛んである。その時期は5月中下旬から10月までである。したがって9月頃、竜北グラスを刈取った直後にイタリアンライグラスを播種すれば、年内に2回、春になって4回くらい刈れる。これも15トンくらいとれるので、両者合計すれば30トンくらいとれるという。

30トン取れると成牛を1.5頭飼えることになる。3hの水田で酪農専業になれば、45頭飼える勘定になる。

竜北グラスは今後の水田酪農に大きな希望をもたらした。また干拓事業も専ら稲作のためであったものから、酪農や肉用牛経営の合理化のためにも行われることであろう。